

第3期
浅井地区地域福祉活動計画

目 次



1. 計画の概要	p. 1
▶浅井地区地域福祉活動計画とは（計画の背景）	
▶計画の位置づけ	
2. 地域福祉活動計画策定に関わる情報	p. 2
▶第2期福祉活動計画振り返りと第3期福祉活動計画に向けて	
▶浅井地区の福祉データ	
▶アンケート調査結果	
▶住民懇談会より	
3. 理念と基本目標	p. 10
▶理念と基本目標	
▶基本目標1「顔の見える関係づくり」	
▶基本目標2「助け合う居場所づくり」	
▶基本目標3「0歳～110歳まで安心して暮らせるまちづくり」	
▶基本目標4「もしもの時、困った時の体制づくり」	
▶基本目標5「地域活動の拡充と活動者を応援する体制づくり」	
4. 計画の推進方法	p. 15
▶計画の推進方法	
▶計画の推進体制	
5. 計画策定に関わる情報	p. 15
▶計画推進に関わる会議や作業の日程	
6. 資料	p. 16
▶計画の推進体制（表1）	
▶計画推進委員会委員名簿	

～挿絵紹介～

水彩・絵手紙作家

荒井 さえこ 氏（長浜市西村町在住）

湖北地域の自然風景を絵に表現し、ギャラリーを自宅にて開催されている。



1. 計画の概要

浅井地区地域福祉活動計画とは（計画の背景）

長浜市では、2014年2月（平成26年）に「長浜市地域福祉活動計画」が策定され、さらに2019年（令和元年）3月に「第2期長浜市地域福祉活動計画」が策定され、「地域の絆で ともに育み支えあい 安心して暮らせるまち 長浜」を基本理念に様々な活動が展開されてきました。

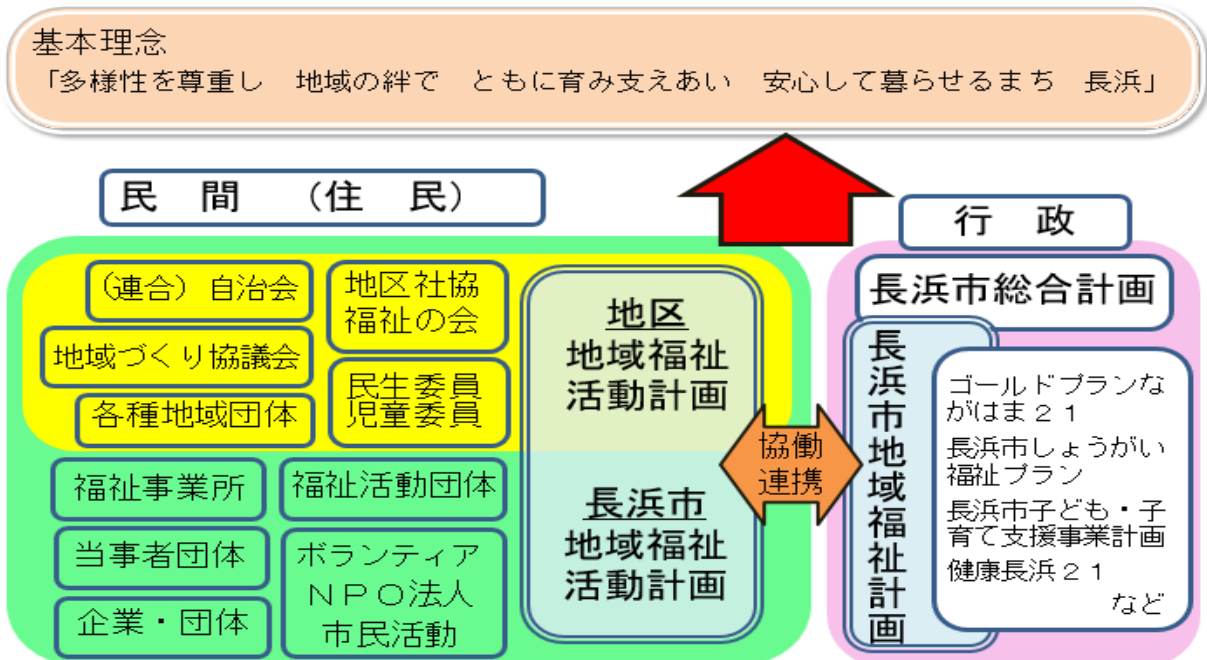
また、浅井地区においても浅井地区地域福祉活動計画を2016年（平成28年）に策定し、さらに1期を振り返り2019年（令和元年）に第2期浅井地区地域福祉活動計画を策定し、地区の特性に合わせた地域福祉活動の計画と活動を推進してきました。

浅井地区は自然豊かな地域で住みやすい反面、新興住宅地と旧集落が混在し、この数年の間、過疎化、少子高齢化が進み、近所関係の希薄化もゆるやかに進んでいる状況です。そのため、今後も、居場所づくりや支えあいの活動、次世代の担い手育成の拡充が望まれています。

このようなことから、地域福祉をさらに発展的に推進し、かつ新たな課題への対応を図っていくために「第2期浅井地区地域福祉活動計画」を振り返りながら、「第3期浅井地区地域福祉活動計画」を策定します。

計画の位置づけ

計画の位置づけ



2. 地域福祉活動計画策定に関わる情報

第2期福祉活動計画の振り返りと第3期福祉活動計画策定に向けて

浅井地区では、2019年（令和元年）に「浅井に住んでよかった」と思える福祉のまちづくりを目指し、第2期福祉活動計画も1期と同様、「安心な暮らしの仕組みづくり」「いきいきと活動できる人づくり」「あたたかいところのかようまちづくり」の3つを柱として地域福祉活動計画を策定し推進してきました。

しかし、2期の計画を推進しはじめこれからという矢先、2020年（令和2年）1月以降、新型コロナウイルス感染症が流行し、さらに緊急事態宣言が発令されたことにより、地域でのサロン、親子ふれあい事業、地域のまつりやイベント、その他計画していた事業も中止に追い込まれました。その後、新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行し、ウイルスも形を変えながら、現在も収束には至っていませんが、この3年の間に、新たな門出の結婚式や、最後のお別れの葬儀でさえ簡素化され、地域のまつりやイベント、研修や事業の縮小、人付き合いなどの簡素化が進み、近隣関係の希薄化に拍車がかかってしまいました。そんな中であっても、各地区の地域づくり協議会との連携による事業及び、屋外で開催できる事業を検討し、5つの地区の地域のいいところ発見につながる事業と健康への推進を兼ねたウォーキングを開催することができました。振り返ると、新型コロナウイルス感染症が長期間にわたったことにより、地域のつながり、居場所の必要性、健康への関心、困ったときの体制づくり、活動者への応援などいくつか重要なポイントが見えてきました。

第3期浅井地区地域福祉活動計画は、2期の活動計画の振り返りを生かし、次のような5つの基本目標を柱にして「あんしんし、いきいきくらす、まちづくり」を目指します。

1期地域福祉活動計画

2期地域福祉活動計画

3期地域福祉活動計画

基本理念「あんしんし、いきいきくらす、まちづくり」

基本目標1

あんしんな暮らしの仕組みづくり

基本目標2

いきいきと活動できる人づくり

基本目標3

あたたかい心がかようまちづくり

基本目標1

顔の見える関係づくり

基本目標2

助け合う居場所づくり

基本目標3

0歳～110歳まで安心して
暮らせるまちづくり

基本目標4

もしもの時、困った時の体制づくり

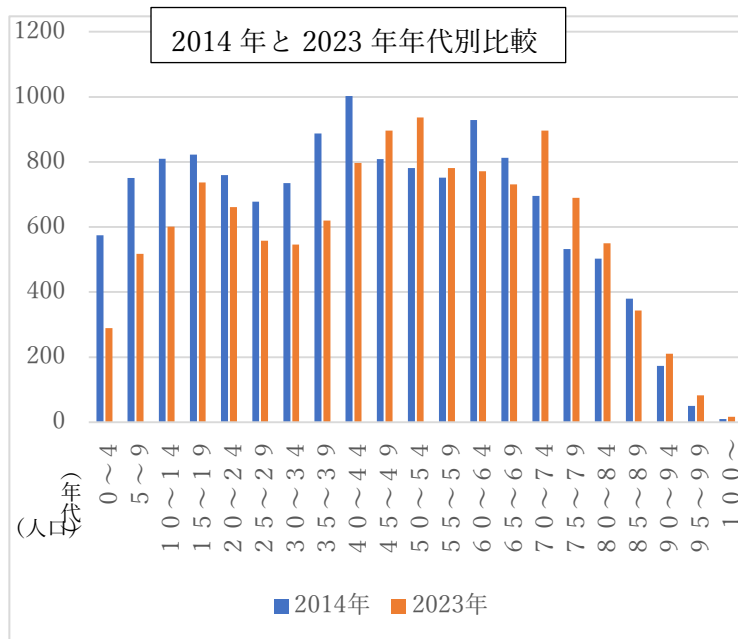
基本目標5

地域活動の拡充と活動者を
応援する体制づくり

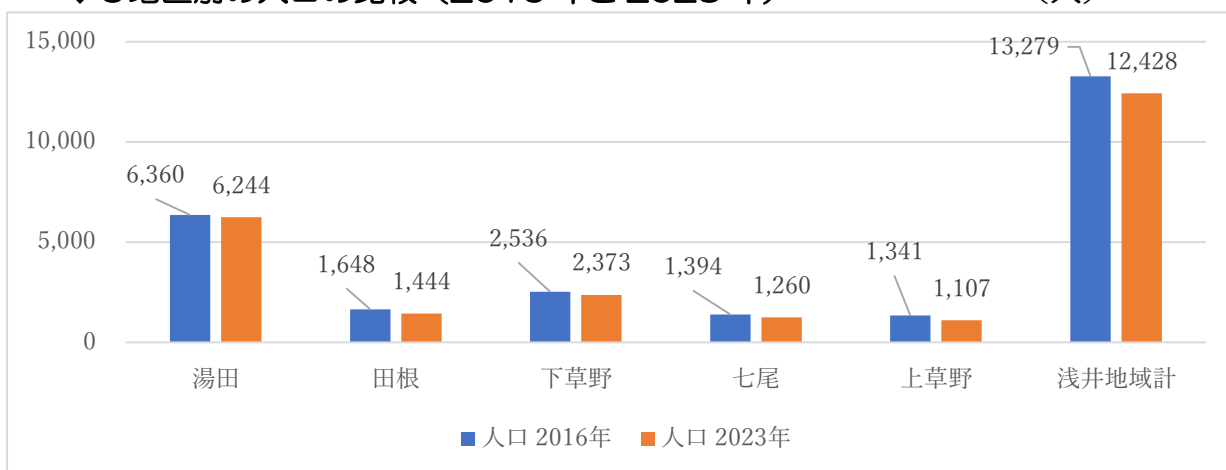
浅井地区福祉データ

◆10年間の人口の比較（人）

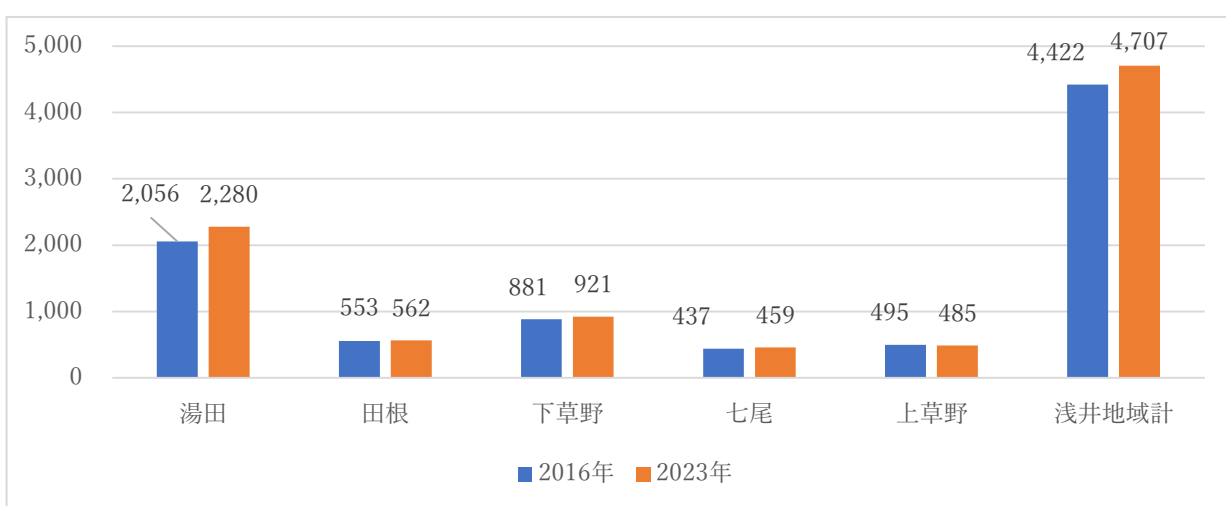
年 代	男性	女性	合 計
2014年	6,528	6,917	13,445
2015年	6,532	6,908	13,440
2016年	6,458	6,821	13,279
2017年	6,402	6,736	13,138
2018年	6,338	6,670	13,008
2019年	6,289	6,602	12,891
2020年	6,240	6,579	12,819
2021年	6,214	6,527	12,741
2022年	6,136	6,465	12,601
2023年	6,029	6,399	12,428



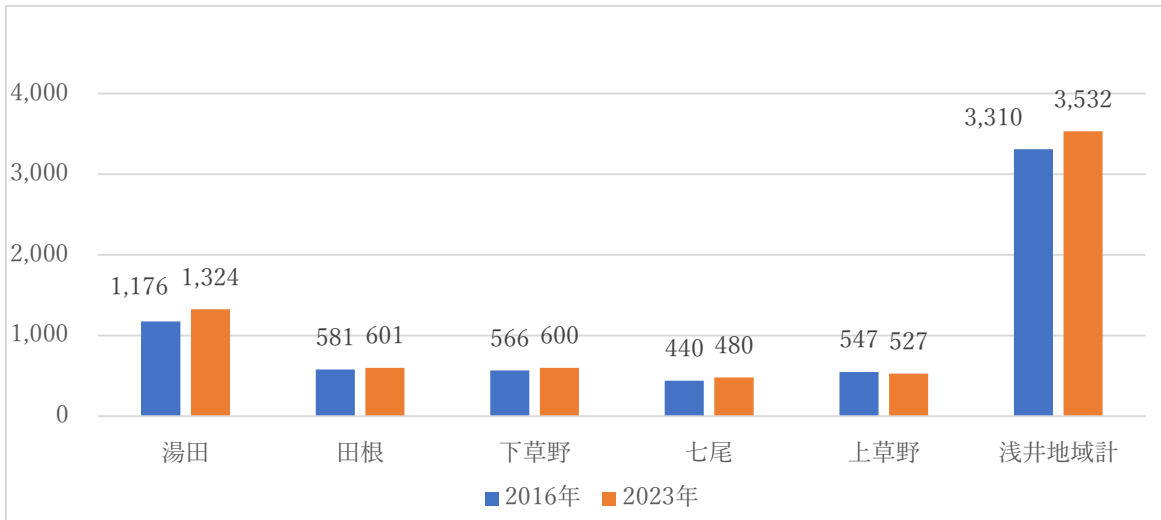
◆5地区別の人口の比較（2016年と2023年）



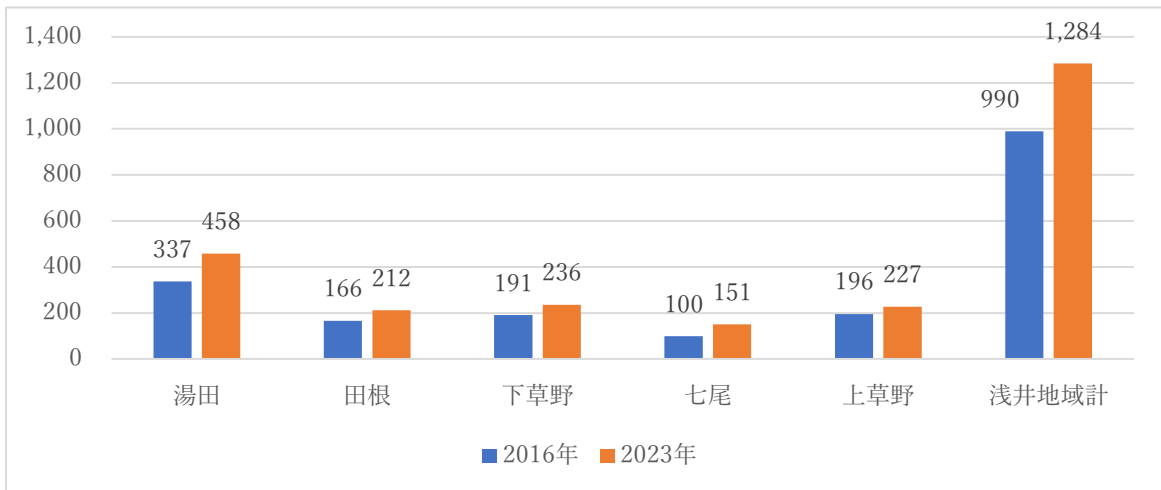
◆5地区別世帯数の比較（2016年と2023年）



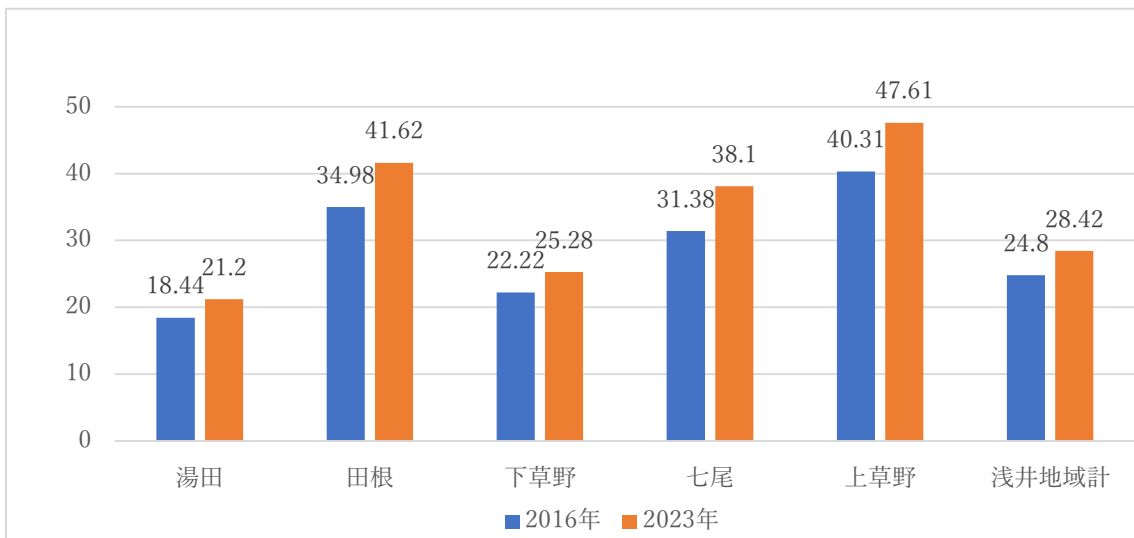
◆5地区別65歳以上人口の比較（2016年と2023年）（人）



◆5地区別65歳以上のみの世帯数の比較（2016年と2023年）（世帯）

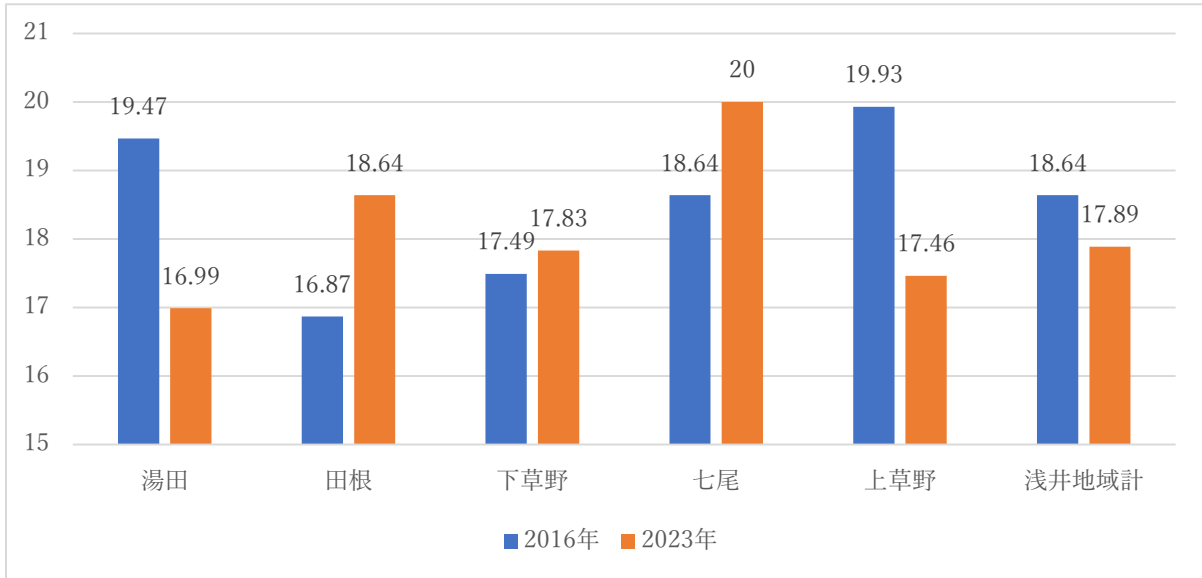


◆5地区別高齢化率の比較（2016年と2023年）（%）

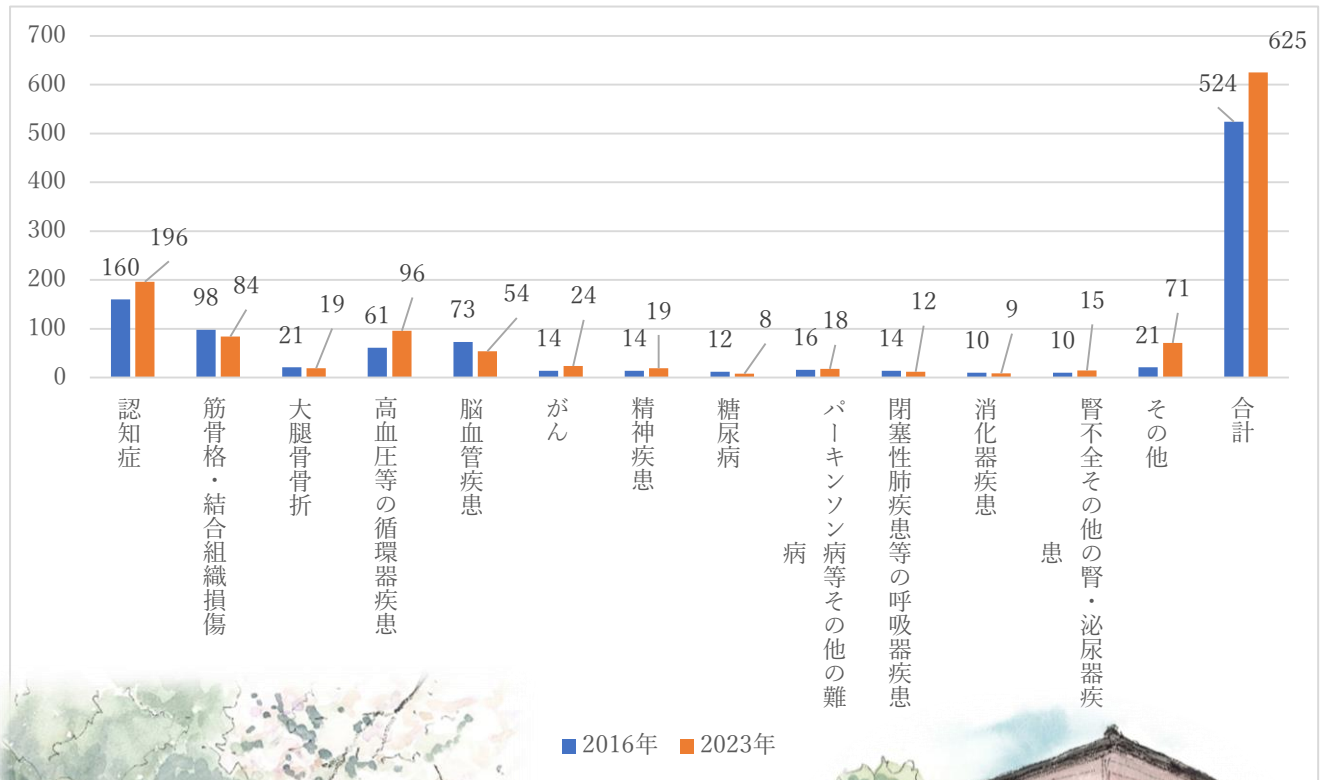


◆5地区別介護認定の比較（2016年と2023年）

(%)



◆認定原因疾病の比較（2016年と2023年）



アンケート調査結果

親子ふれあい事業に参加された子育て世代の方や、サロン交流会、健康講座等の参加者、各種団体にアンケート調査を行いました。

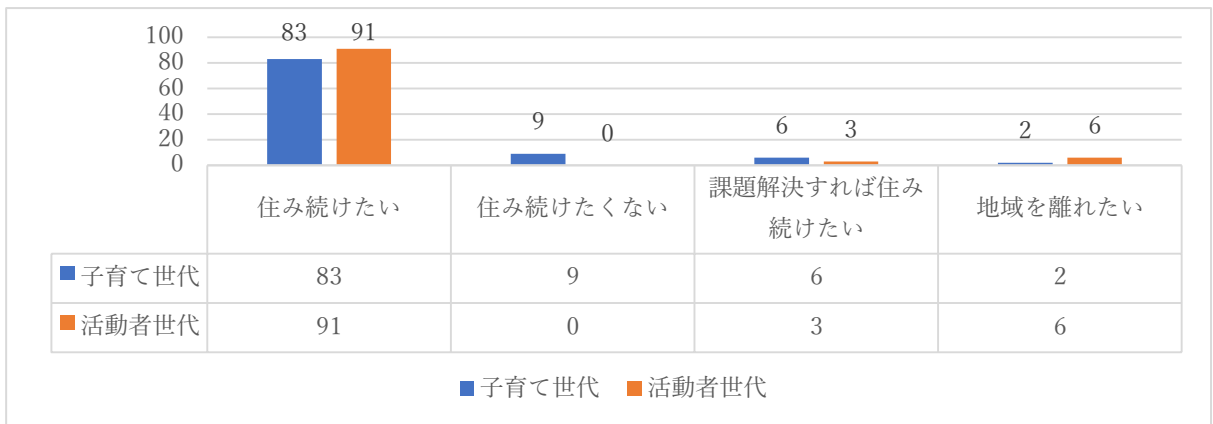


アンケート協力者団体

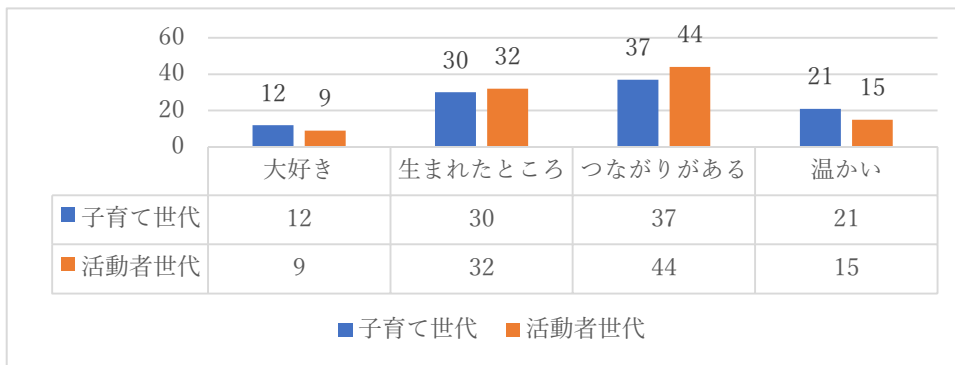
子育て世代：親子ふれあい事業参加者（52名）

活動者世代：サロン交流会参加者、健康講座参加者、日赤奉仕団団員
健推推進員、福祉の会役員等（181名）

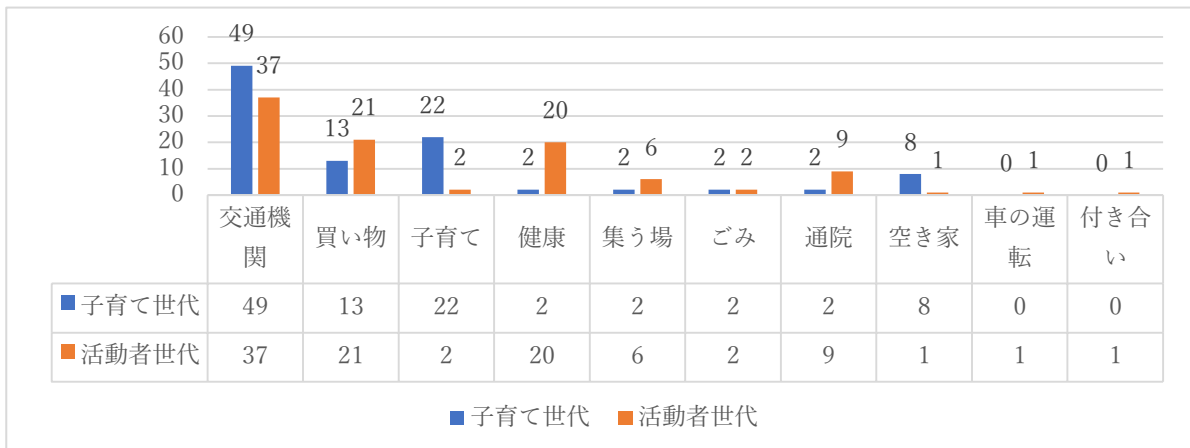
◆今後、この地域に住み続けたいと思いますか（％）



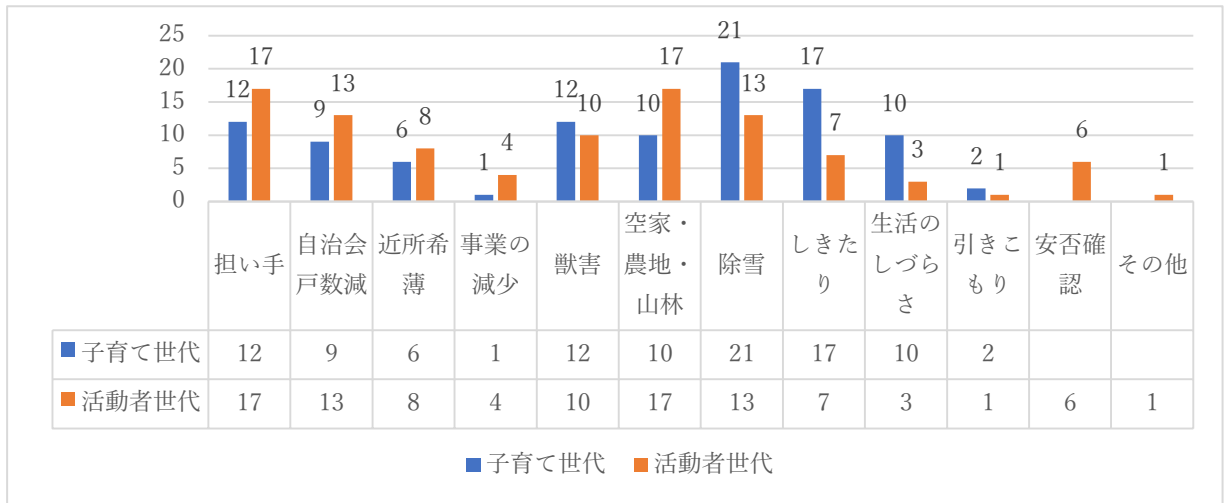
◆この自治会で住み続けたいと思う理由は（％）



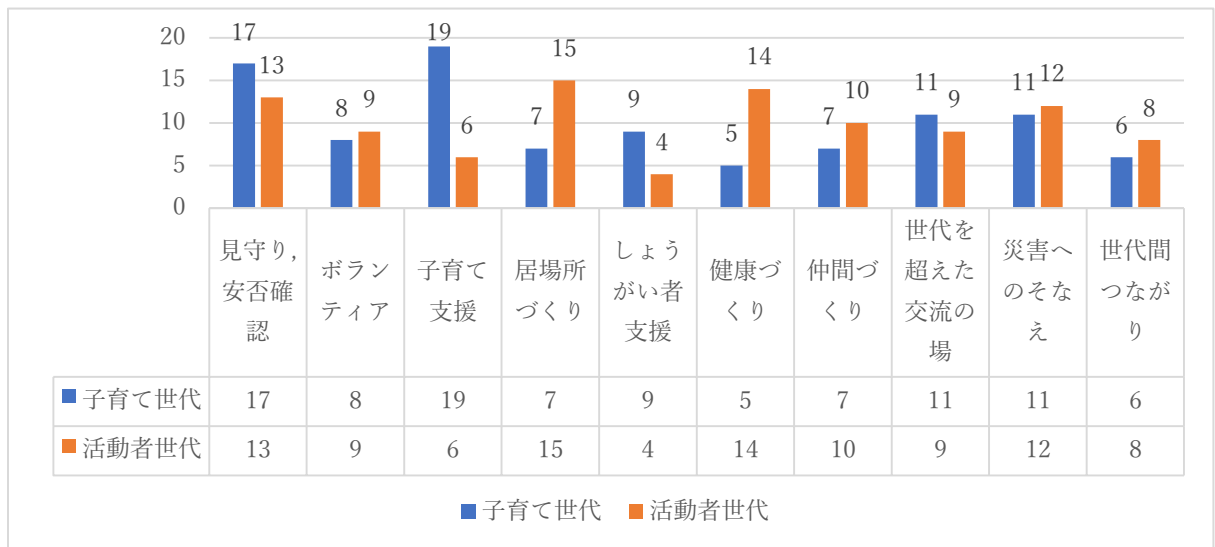
◆あなたが自分の地域で生活していく上での不安はありますか（％）



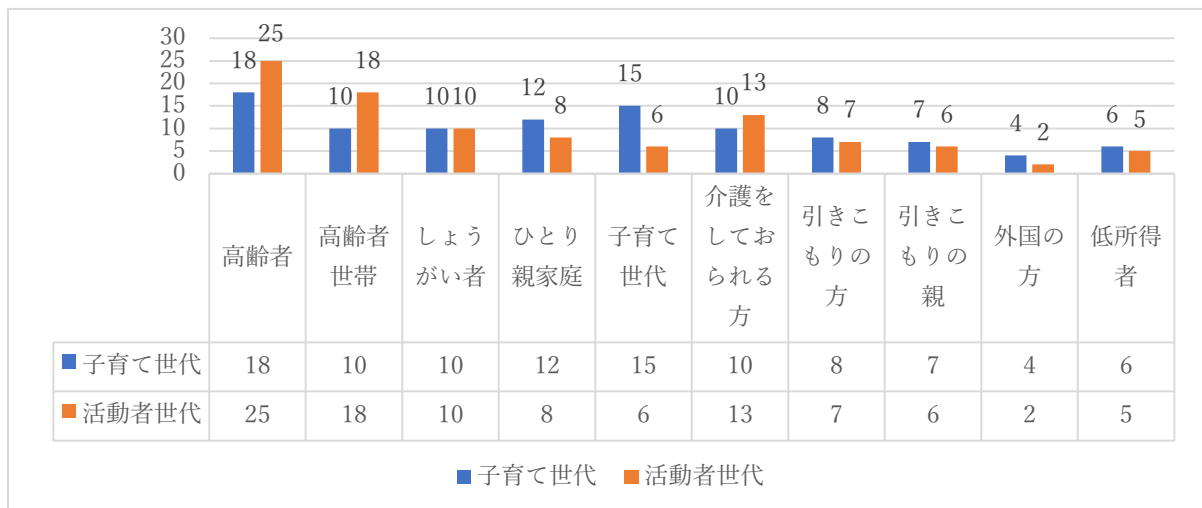
◆地域での課題はどのようなことですか (％)



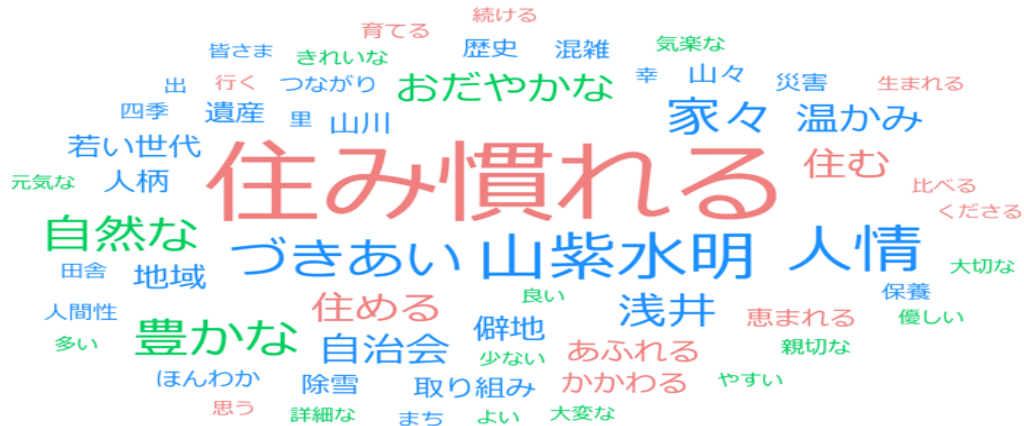
◆誰もが安心して暮らしていくためには、地域で特に重要なことや、また何に取り組みばよいと思いますか。(％)



◆地域で支援が必要と思われる方はどのような方だと思いますか (％)

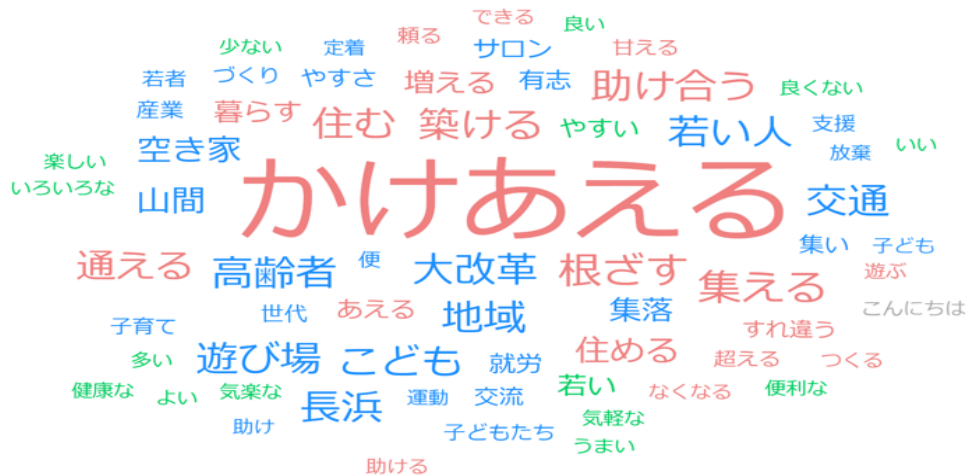


◆「浅井の良いところ」について



- 自然が豊かで星がきれい。災害も少なく空気が澄んで都会の混雑もなく心豊かに過ごせる。
- 自然の歴史文化遺産が多くある。
- 地元愛が強く義理堅い。ほんわかと人の温かみがあり親切で優しくまた、穏やかなで人情味あふれる人柄の人が多い。
- 近所付き合いがあり自分の地域を大切にしている。田舎の良さと地域のふれあいが多く子どもを良い環境の中で育てられる。
- 他の地域と比べて若者が多く幅広いつながりがあって住みやすい。

◆今住んでいる地域がこうなったらいいのになあと思うことはありますか。

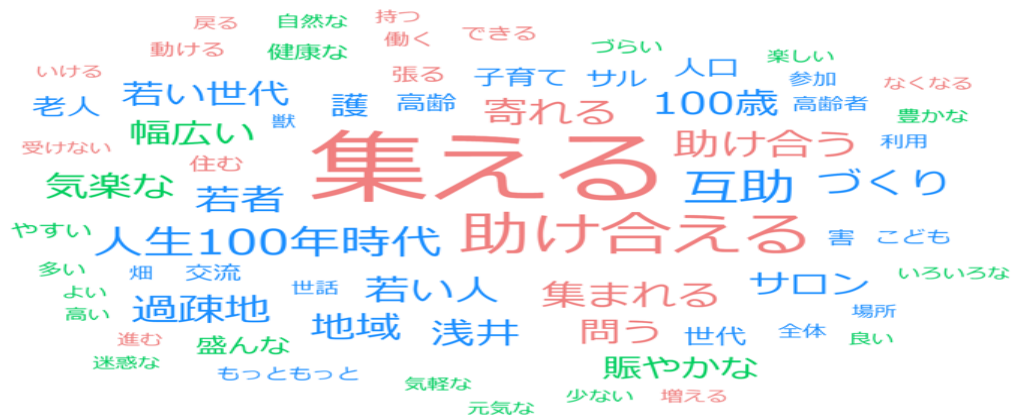


- 高齢者が気楽に通える集いの場があったり、子どもたちの遊ぶ声が聞こえたりする町の中のどこでも「こんにちは、お元気ですか」と声をかけあえ、世代を超えたつながりがある町。
- 老人会やサロン活動を通して、お互いに頼ることができ、助けあえる地域や人づくりを目指して安心して暮らせる町。
- 子どもから若者、お年寄りなどみんなが顔の見える関係づくり、場所づくりにより、その地域に住んでよかったと思える町。
- 若い人が定着できるような産業があり、働きやすく生活しやすい環境を

作る。そのうえで地域に定住してもらって家庭を持ち、子どもの遊び場や保育施設が充実していて住みやすい町。

- 買い物支援、バスの運行などの移動手段、近隣の空き家・空地対策、差別や偏見がなく昔ながらの風習も改善されて安心して暮らせる町。
- 住民の手により花を植えたり、若い人たちと共に地域活動や自治会行事に参加して、イベントなどの楽しい催し物を開催して交流を図る。

◆浅井(旧浅井町)地域が5年10年後こうなったらいいな(未来予想)



- 高齢者が介護を受けない身体で、100歳になっても自分で動けて、人の世話にならないように、元気で長生きできる生活ができること。
- 若い人々と一緒に交流し助け合いながら健康で楽しく生活できること
- 幅広い世代が参加できるお話カフェや交流サロンのようなライトな企画があると良い
- 若者が働く場所が増えて、若い人々が定着して人口が増え子どもも増えてにぎやかな地域になってほしい。
- 気楽に集える子ども食堂や子育て中のママさんの集える場づくりの他、若者が参加しやすいお笑いやスポーツイベント、地域が行う大運動会、地域の祭り事、餅つき大会などを開催する。
- 自治会での地域の見守り活動や、空き家を活用した移住の促進など、地域を大切に、いつどんな時も世代を超えて助け合えるような世の中になる。
- 獣害がなくなり安心して畑づくりができる
- ふくらの森でハンモック体験や夜空を眺めたり自然観察ができる地域

8ページ~9ページは懇談会で話された意見等をテキストマイニング方式でまとめました。

※テキストマイニングとは、自由形式で記述した文章を自然言語処理の技術によって、単語や文節に分割し定性や定量をもとに採掘(マイニング)しまとめる方法



3. 理念と基本目標

理 念

あんしんいきいきくらすまちづくり

基本目標 1

「顔の見える関係づくり」

行動指針	あいさつや地域対話の推進と実践 集まる仕組みや仕掛けづくり
------	----------------------------------

新型コロナウイルス感染症によって生活様式も変化し、町内においてもご近所同士が出会う機会が少なくなり、また地域においてもイベントの開催が減少し参加する場やつながりも少なくなってきました。

今回アンケートやヒアリングを行った結果、今住んでいる地域が、子どもからお年寄りまで、みんなの顔が見える関係を作り、どこでもあいさつが交わしあえ、世代を超えたつながりのある町になるとよいという意見が多くきかれました。

第3期の計画においても、各種団体と連携して、まず顔の見える関係が作れるよう心がけ、近所や地域活動、団体活動への参加、人と人の出会う機会を増やしながらか、あいさつや対話（コミュニケーション）をすることで、活動の基盤を作り、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

取組内容

- ・あいさつ運動の推進
- ・回覧板での声かけ
- ・地域の見守り活動
- ・移動店舗による見守り
- ・地域のサロンの推進
- ・イベントの開催
- ・研修会等の開催
- ・未就園児対象事業



地域ウォーキング



地協のまつり



各講座



交流会



ふれあい事業



移動販売・ベンチ



基本目標 2

「助け合う居場所づくり」

行動指針	居場所づくり ・自治会内での居場所 ・自治会を超えた居場所
------	-------------------------------------

1期、2期の浅井地区地域福祉活動計画においても、自治会内の居場所づくりや地域を超えた活動の場における、仲間づくりは重要な位置づけとされ推進してきました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響や、スタッフの高齢化、後継者不足などで集まる場がなくなったサロンやボランティア活動などに影響が出ていることも現実です。

今回、アンケートやヒアリングを行った結果、85%以上の方がこの地域に住み続けたいと希望し、気楽に集える場所やお話カフェや交流会サロンのような場、子育て支援や、世代を超えた交流の場、仲間づくりに取り組むことで安心して暮らすことにつながり、居場所づくりは必要と回答されています。

第3期の計画においても、各種団体と連携して人と人がつながり、お互いを認め合い、楽しく過ごし学びあえる居場所は、自治会内や自治会を超えた場所は誰にでもどの地域にも必要です。自治会を超えた集まりの場所として、子育てサロンのような同じ思いを持った者の集まり、また折り紙や絵手紙の趣味を通して集まる場も必要です。居場所において対話（コミュニケーション）を深め、気づきあうことで安心して暮らせる地域を目指します。

取組内容

- ・サロンの開催
- ・親子ふれあい事業
- ・子育て講演会
- ・地域への参画
- ・貸出備品の充実
- ・ボランティアグループ



自治会ごとのサロン



中央型サロン



子育てサロン



シニアメンバーズクラブ



日赤奉仕団

基本目標 3

「0歳～110歳まで安心して暮らせるまちづくり」

行動指針	地域で支える体制づくり
	生活支援活動
	地域住民のいきいき健康づくり

1期、2期の浅井地区地域福祉活動計画の中には「健康」という表現はなく、広く「生き生きと活動できる人づくり」という言葉の中に含まれていました。

今回、アンケートやヒアリングの結果において「人生100年時代、健康で長生き」「100歳になっても自分で歩ける身体作り」という意見が多くみられたため「健康」のキーワードを行動指針に加えます。

健康で長生きはみんなの願うことですが、浅井地区では要介護となる主な原因疾患が、認知症に次いで、高血圧や脳血管疾患、循環器疾患が多くなっており、30代や40代の若い世代から介護の予防も見据えた健康管理の大切さについて啓発を行っていく必要があります。また、認知症、子どもや青壮年世代のひきこもりなど、ライフステージごとの様々な課題に対しても、家族だけが支えていくのではなく、地域で支えていく体制づくりを地域全体で進めていく必要があります。

第3期の計画においては、福祉計画の大きな柱として基本目標に「0歳～110歳まで安心して暮らせるまちづくり」を掲げ、子どもから高齢者が心身ともに健康に暮らすことができるよう、また、さまざまな課題を抱えていても、この地域で住み続けることができるよう各種団体と連携した地域づくりを目指します。

取組内容

- ・ 友愛訪問
- ・ 命のバトン事業
- ・ 生活支援相談窓口
- ・ 健康講座
- ・ ウォーキング
- ・ 出前健康講座



健康講座



各種測定



地区ウォーキング



「もしもの時、困ったときの体制づくり」

行動指針	平常時からの見守り体制づくり
	災害を想定した支え合える体制づくり

浅井地区の人口が減少する中において、高齢者人口は10年前より多く、高齢化率も高くなっています。また65歳以上の高齢者世帯も増加し、「子どもが近くに暮らしていないため、ちょっとした相談ができない」という声も聞かれます。そのため安心して生活するには、近所同士の助け合いが不可欠です。しかし新型コロナウイルス感染症の流行によって、一部においては、近所関係の希薄化が進み気楽に相談しあえる関係も減少しつつあります。

今回、アンケートやヒアリングを行った結果、子どもから高齢者までの見守りや安否確認の充実、また災害への備えに取り組むことで安心につながるのではと回答されています。

今後、安心して暮らしていくためにお互いを見守り合い、頼れることのできる人が近くにいる関係を作ることが必要です。そして、お互いが思いやる気持ちを持ち合うことによって安心した生活をおくることができます。

また、誰でも気楽になんでも相談できる生活相談窓口を設置し、気楽に相談できる場所を増やすことも必要です。

各種団体と連携して、災害時に備え、自治会ごとに支援が必要とする人々を把握し、また災害時及び、日常の病気やけがに備えて「命のバトン」を活用した見守り体制づくりを推進していきます。

取組内容

- ・命のバトン
- ・見守り活動
- ・友愛訪問
- ・絵手紙の送付
- ・見守りマップ
- ・災害に対する研修
- ・救急救命研修
- ・相談窓口の設置
- ・各自治会支援者数把握
- ・避難支援・見守り支え合い制度



見守り会議



命バトン



災害の備え講座



救急救命講習



災害の備え。炊き出し

基本目標 5

「地域活動の拡充と活動者を応援する体制づくり」

行動指針	人づくり、後継者づくりの支援 活動者を支援する場づくり
------	--------------------------------

浅井地域は、サロンやボランティア活動及び、各種団体の活動によって福祉の活動が活発化しています。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行によって活動が制限されたことで、活動を中止されたサロンやボランティアグループもあります。また各種団体も活動を中止したことで、啓発活動ができなかったこともあり、活動者が減少し、後継者不足に拍車がかかっていることもありますが、それが原因だけではありません。価値観の多様性が進み個の時代と言われる、自由な考え方で団体活動に参加をされない場合もあります。

今回、アンケートやヒアリングを行った結果、居場所づくりや地域のイベント等の開催などを希望される声が多く聞かれました。しかし、居場所やイベントを企画するスタッフが減少していることもあり、その支援者を応援していく体制も必要と考えます。また、同じ思いを持った人々が出会う場を作ることで新たな活動の輪が広がります。各種団体においても、維持していくための相談や支援等を行い、連携しながら各団体同士の助け合いも今後必要だと考えます。子どもから高齢者までの幅広い世代が地域活動に取り組むことで、浅井地域に住んでよかったと思え、地域を愛せる心が育成されていきます。今後も各種団体と連携して継続して取り組んでいきます。

取組内容

- ・サロンボランティア支援
- ・子どもボランティアの育成
- ・新しい場の支援
- ・各種団体と連携



ボランティア



ジュニアボランティア



子育て応援



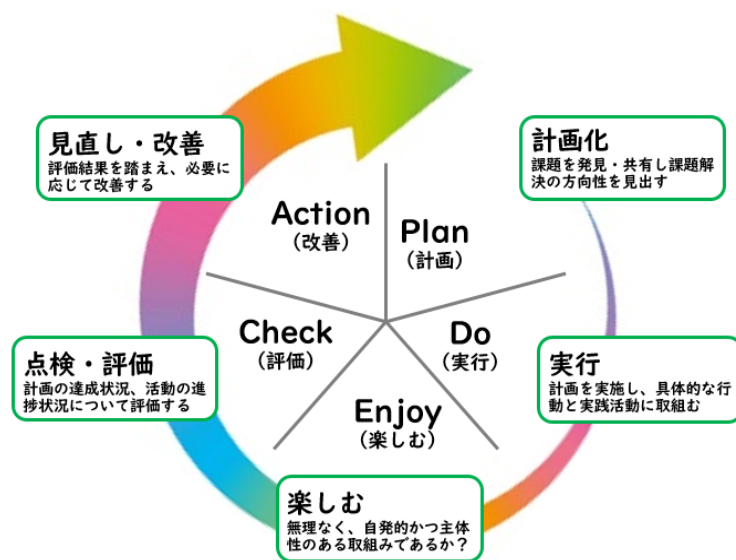
サロンスタッフ交流会

4. 計画の推進方法

計画の推進方法

浅井地区地域福祉活動計画は、浅井の地区の住民みんながより暮らしやすい地域にするためにみんなで行動するための指針です。

私たち、住民一人ひとりの力と、地域の福祉団体、施設、専門職などと連携しながら、子どもから高齢者までが、安心していきいきと暮らせるよう、計画し、楽しみながら実行し、定期的に振り返りながら改善を行い、さらなる活動の発展を行っていきます。



計画の推進体制

各種団体と連携し、できることを無理せず楽しみながら推進をしていきます。浅井福祉の会としては、協力員の協力を得て地域福祉活動計画を推進していきます。
(参考資料 表1)

5. 計画策定に関わる情報

計画推進にかかわる会議や作業の日程

日 程	内 容
2022年12月 7日	第1回推進委員会
2023年 1月18日	福祉の会（正副会長 部会長会議）
2023年 3月 8日	第2回推進委員会 懇談会
2023年 4月25日	福祉の会（理事会）
2023年 5月10日	福祉の会（正副会長 部会長会議）
2023年 5月25日	福祉の会（総会）
2023年 4月～9月	ヒアリング・アンケート調査 ヒアリング・アンケートまとめ
2023年12月11日	福祉の会（正副会長 部会長会議）
2023年12月19日	第3回推進委員会
2024年 3月 7日	福祉の会（正副会長 部会長会議）

(参考資料 表1)

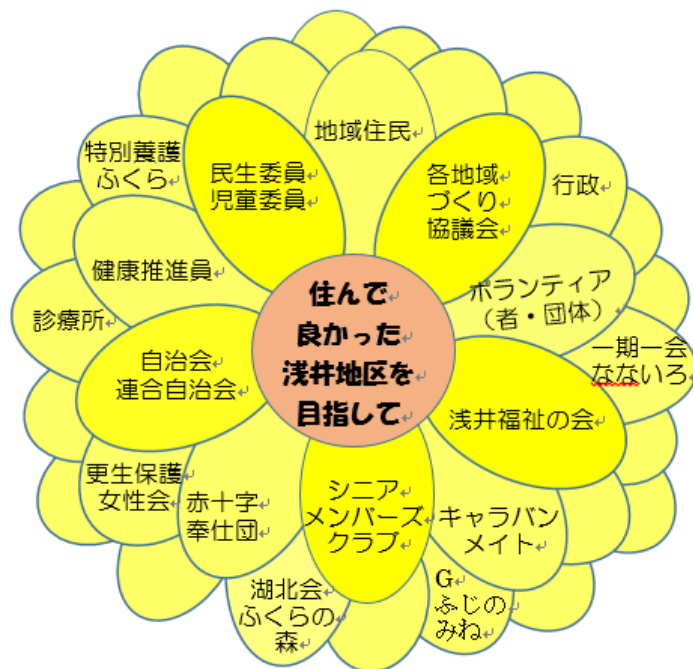
理念	安心し いきいきくらす まちづくり 2024年4月～2029年3月								
3期の柱と指針 各種団体	顔の見える関係づくり		助け合う居場所づくり	0歳～110歳まで安心して暮らせるまちづくり			もしもの時、困った時の体制づくり		地域活動の充実 活動者を応援する体制づくり
	あいさつや地域対話の推進と実践	集まる仕組みや仕掛けづくり	居場所づくり	地域で支える体制づくり	生活支援活動	子どもから高齢者いきいき健康づくり	平常時からの見守り体制づくり	災害時を想定した支え合いの体制	人づくり、後継者づくりの支援活動者を支援する場づくり
地域づくり協議会	移動販売(上草野/田根)	祭りなどの開催 地区ウォーキング	子ども参加事業(子育てサロン等)	見守り	移動販売(上草野/田根) 生活支援(下草野)	スポーツ大会 地区ウォーキング	相談窓口設置(湯田・下草野)	見守りマップ	人・後継者づくり・場づくり
民生委員 児童委員	朝のあいさつ運動 地域の見守り		自治会内の交流 サロン支援	友愛訪問	相談		個々の相談 高齢者宅訪問	支えあい登録の推進	
シニアメン バースクラブ		ゴルフやグラウンド ゴルフ大会開催	自治会内の交流 サロンの開催	友愛訪問		健康講座の開催	見守り活動		人・後継者づくり・場づくり
自治会 連合自治会	見守り	地域のまつり	サロン開催	見守り			見守り活動	見守りマップ 防災福祉マップ	
日赤奉仕団	イベントでの防災啓発	美化運動や交流・研修	サロン開催	友愛訪問			見守り活動	救急救命講習 災害の研修	人・後継者づくり・場づくり
健康推進員		イベントへの協力	出前講座の開催			血圧測定等の健康に関すること			人・後継者づくり
キャラバン メイトお市	認知症啓発	イベントへの協力	出前講座の開催	認知症啓発	相談	認知症予防			人・後継者づくり
更生保護 女性会	朝のあいさつ運動 地域の見守り		子育て支援や見守り	見守り	見守り				人・後継者づくり
診療所	イベントへ協力	イベントへの協力	地域貢献(出前講座等)	各関係機関との連携	各関係機関との連携	健康講座の開催	各関係機関との連携 個々の相談	各関係機関との連携	
各福祉施設	イベントへの協力	イベントへの協力	出前講座の開催		相談				人・後継者づくり
行政 長寿推進課	移動販売(上草野)	イベントへの協力				地区ウォーキング 健康講座の開催			
行政 健康推進課	イベントへの協力	イベントへの協力				地区ウォーキング 健康講座の開催			
浅井福祉の会	イベントへの協力	子育て講演会 親子ふれあい事業 貸出備品充実 相談	サロン支援 浅井お楽しみサロン 活動者の居場所(ボランティア等) 貸出備品充実 相談	命のバトン 避難支援見守り 支え合い	各関係機関との連携	地区ウォーキング 健康講座の開催 活動者の応援	相談窓口		ボランティア交流会 ジュニアボランティア育成 他機関との連携 人・後継者づくり・場づくり

計画推進委員会委員名簿



氏名	所属・役職 (敬称略)
伊藤英司	浅井福祉の会 会長
山田幸実	浅井福祉の会 副会長
高山茂二	浅井福祉の会 副会長・上草野地区連合自治会長
清水峯生	浅井・湯田地域づくり協議会 会長
中川仁男	浅井・湯田地域づくり協議会
三上保彦	田根地域づくり協議会 会長
丸山久徳	下草野地域づくり協議会 会長
清水庄衛	下草野地域づくり協議会 事務局長
山田正博	七尾地域づくり協議会
松井善和	上草野地域づくり協議会
柏崎元皓	浅井診療所 所長
角川章夫	浅井地区民生委員児童委員協議会 会長
伊吹正弘	シニアメンバーズクラブ浅井会長
近藤八栄子	長浜市浅井赤十字奉仕団 委員長
松村吉洋	浅井福祉の会 総務部会部会長
高橋静生	浅井福祉の会 高齢者しょうがい者部会部会長
中川利宏	浅井福祉の会 子ども部会部会長

子どもから高齢者まで地域のみんなが



安心していきいきと暮らせるように